

久喜市立郷土資料館だより

ふ え ね 笛の音 第13号



「ちょっとむかしの道具たち—暮らしと祭り—」展示風景

郷土資料館では令和3年10月9日（土）から令和4年3月31日（木）まで収藏品展「ちょっとむかしの道具たち—暮らしと祭り—」を開催しています。今回は収藏品の中から久喜市の祭りに関する資料をピックアップして紹介しています。久喜の提燈祭りで使われた山車の緞帳（山車を覆う幕）や山車の人形に着せる衣装など、市内の天王様に関する資料のほか、市内の獅子舞で使われていた道具や昔懐かしい民具もあわせて展示しています。

昨年から続くコロナ禍の影響で、各地の祭りの伝承にも影響が出ていますが、ぜひ資料館にお越しいただき、地域に伝わってきたお祭りの歴史や活気ある雰囲気を感じ取っていただければ幸いです。

目次

- 収藏品紹介⑫・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
人物埴輪（栢間古墳群出土）
- 鷲宮催馬楽神楽伝承教室の成果を
発表しました！・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- 地域史コラム・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
渋沢栄一と久喜市
- お知らせ情報・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

はにわ かやま 収蔵資料紹介⑫人物埴輪 (栢間古墳群出土)

古墳時代(3世紀後半～7世紀)は、全国各地で有力者の墓である古墳がつくられた時代です。久喜市では菖蒲町柴山枝郷(神ノ木遺跡・神ノ木2遺跡)や菖蒲町小林(東浦古墳)において、5世紀頃から6世紀前半に築かれた方形や円形の古墳跡が見つっています。また、元荒川の左岸の台地上には古墳が集中している栢間古墳群があり、中でも埼玉県指定史跡となっている天王山塚古墳は、墳丘の長さが100mを超える前方後円墳で、県内屈指の大きさを誇っています。

こうした古墳群や周辺の遺跡からは、その時代を物語る遺物が多数出土しています。例えば、神ノ木2遺跡では土を掘りくぼめて作った土壙墓が見つかり、そこから副葬品である鉄剣が出土しました。小林八束1遺跡では方形周溝墓(血縁で結ばれた小集団の墓)や集落跡が見つかり、竪穴式住居跡から祭祀に使われたと考えられるミニチュアの壺と甕が出土しています。

郷土資料館では栢間古墳群から出土した人物埴輪を展示しています。この人物埴輪は大正時代の耕地整理の際に、菖蒲町上栢間字堰下で出土したものとされています。勾玉の首飾りと耳飾りをしており、肩に襷がけ

をして腰には腰帯をつけた女子像です。こうした人物埴輪は古墳時代の半ば、5世紀中頃から作り始められたものと考えられています。埴輪とは副葬品として古墳に並べたてられるものですが、人物埴輪を中心とする形象埴輪の意味については、諸説存在しています。例えば、葬列を表しているとする説や王位を引き継ぐ儀式を表しているとする説など、確定をみるには至っていません。ぜひ実物を郷土資料館でご覧になって、そこに込められた古代の人々の想いを想像してみてください。

(郷土資料館学芸員 星野 諒)



人物埴輪
(栢間古墳群出土)
6世紀～7世紀頃

わしのみやさいばらかぐら 鷺宮催馬楽神楽伝承教室の成果を発表しました！

郷土資料館では、毎年「鷺宮催馬楽神楽伝承教室」を開催して、一般の方が国指定重要無形民俗文化財である「鷺宮催馬楽神楽」を練習し、その成果を鷺宮文化祭で発表できる機会を提供してきました。令和3年度は、10月24日(日)に鷺宮公民館で発表しました。

今年の伝承教室には、6歳から70代までの幅広い年齢層の方々が参加し、9月から10月にかけての全12回(計16時間)の教室を通して、鷺宮催馬楽神楽保存会員の皆様のご指導のもと、舞や太鼓、笛の練習に励みました。緊急事態宣言の延長の影響によって練習時間が短くなり、練習回数も変動するなど多くの困難がありましたが、練習の甲斐もあり、今年から初参加された方も当日の発表では見事な舞と演奏を披露することができました。参加者から「素敵な体験ができました」、「来年も参加したいです」との声も頂いております。来年度も同時期に開催を予定していますので、ご興味のある方は郷土資料館までお問合せください。

※例年は8月頃に募集を開始します。広報きや公共施設のポスター等をチェックしてみてください。



鷺宮文化祭での発表の様子





渋沢栄一と久喜市

令和6年から新一万円札の顔となる渋沢栄一は、大河ドラマで取り上げられるなど、現在大きく注目されています。武蔵国^{はんざわ}榛沢郡^{ちあらいしま}血洗島村（現埼玉県深谷市）に生まれた渋沢栄一は、埼玉との関わりも深く、今回は久喜との繋がりについてご紹介します。

まず、大正11年（1922）に渋沢栄一が久喜に来て、講演を行った記録が残っています。当時の久喜尋常小学校での講演の様子を写した写真と校舎前での集合写真が確認されており、その詳しい経緯については判明していませんが、同年、渋沢栄一は加須や大宮など埼玉県内で活発に講演を行っており、久喜にも足を運んだのではないかと推測されます。

次に久喜市出身の偉人である本多静六との親交が挙げられます。両者は様々な仕事で関わりを持っていますが、特に埼玉学生誘掖会^{ゆうえきかい}の創立・運営において深い繋がりを持っています。埼玉学生誘掖会は埼玉県出身の各界で活躍する人々を中心に設立された民間団体で、奨学金貸与や寄宿舎の設置などの学生支援事業を展開しました。当初渋沢は学生育英の目的に理解は示しましたが、資金繰りの見通しの悪い組織への参画には消極的でした。そんな渋沢を説得するために活躍したのが本多静六です。本多は渋沢の邸宅に赴き、自身の年収の3分の1にあたる300円を提示して、学生育英のために自ら多額を出資する所存であ

ることを示し、それに心を動かされた渋沢は、以後、全面的に協力することになります。渋沢栄一は誘掖会の初代会頭となり、渋沢の亡き後は本多静六が2代目会頭となりました。

誘掖会は多くの学生を世に送り出し、各界で活躍していますが、その一人である渡邊得男^{かみかわさき}は上川崎村（現久喜市上川崎）出身で、東京帝国大学法学部卒業後、渋沢栄一が頭取を務める第一銀行に勤めました。実業界を引退した渋沢は、自身の資産を効果的に近親者へ分配するために渋沢同族株式会社を設立しますが、その取締役^{たか}に渡邊を抜擢しました。このとき渋沢は80歳、渡邊は36歳でした。渡邊は会社の経営だけでなく、優秀な秘書として晩年の渋沢を支え、渋沢に「小生の股肱^{ここう}（最も頼りになる部下）の一人」と言わしめるほどでした。

また、渋沢栄一が「論語」を重視し、儒学によく通じていたことは有名ですが、渋沢が少年時代に儒学を教わった高名な先生である菊池菊城^{だいわら}は台村（現久喜市菖蒲町台）の出身で、論語の講義に定評がありました。菊城は渋沢の伯父にあたる渋沢宗助宅を借りて私塾^{ほんざいしやうじや}「本材精舎」を開き、地域の人に儒学を教えました。渋沢は晩年の回想で、14歳の頃に菊城の講義を3、4回聞いたことがあり、講義をよく解釈したので褒められたことを覚えている、と語っています。（星野）



久喜尋常小学校集合写真（大正11年）
前列左から5番目のステッキを持っている人物が渋沢栄一



渋沢栄一肖像

鷺宮催馬楽神楽の奏演について

鷺宮神社の歳旦祭さいたんさいにあわせて、令和4年1月1日(土)に国指定重要無形民俗文化財「鷺宮催馬楽神楽」が奏演されます。歳旦祭では1日に神楽が2回奏演され、まず年明けの午前0時から午前2時頃にかけて行われます。その後、午前11時頃から午後3時頃にかけて、2回目の神楽が行われます。

例年、鷺宮神社では年明けの0時前には、初詣に来る参列者が拝殿の前に行列を作っています。0時になると同時に参拝が始まり、同じタイミングで鷺宮催馬

楽神楽の奏演も始まります。神楽の奏演とともに多くの参列者が参拝していく様子は、鷺宮神社の元旦の風物詩となっていますので、ご興味のある方はぜひ鷺宮神社まで足を運んでみてはいかがでしょうか。

※神楽を見学する際は非常に寒くなりますので、しっかりと防寒対策をしてご覧ください。



令和3年10月10日 秋季大祭
鷺宮催馬楽神楽奏演の様子



平成31年1月1日年明け
鷺宮神社拝殿の様子

※令和4年5月末(予定)まで、旭橋橋りょう整備工事のため、旭橋は通行止めになります。



電車で

- 東武伊勢崎線 鷺宮駅下車 徒歩15分
- JR宇都宮線 東鷺宮駅下車「豊野コミュニティセンター」行きバス「図書館入口」下車 徒歩2分

自動車で

- 東北自動車道 加須インターから10分
久喜インターから25分

久喜市立郷土資料館だより

笛の音

第13号

発行 令和3年(2021)12月10日

久喜市立郷土資料館

〒340-0217

埼玉県久喜市鷺宮5-33-1

電話 0480-57-1200

e-mail kyodoshiryokan@city.kuki.lg.jp

URL <http://www.city.kuki.lg.jp/>

開館時間 午前10時～午後6時

休館日 月曜日(祝日除く)、年末年始、
祝日の翌日、月末金曜日

入館料 無料

※有料の特別展を開催する場合があります